

寸言

一般社団法人 日本航空宇宙工業会
常務理事

山北 和之



2021年国際航空宇宙展の開催に向けて

当工業会は来年9月29日から10月2日にかけて、国際航空宇宙展（JA2021）を開催する予定です。本展示会は1966年に開催された東京航空宇宙ショーを第一回とする、半世紀以上の歴史を誇る我が国唯一の国際航空宇宙展です。参加国もJA2016では30ヶ国以上、来場者も4.4万人を超えるまで成長しました。パリエアショーなどのような欧州の展示会などにはまだ及びませんが、アジアで最も歴史ある展示会として独特の役割とリーダーシップを果たしてきました。2000年から2016年の間は5回連続4年間隔で開催されましたので次はJA2020と期待されたところ、オリンピック開催の影響でJA2021となりました。しかし、JA2016が期待を上回る盛況であったことと、そこから5年あけるのはこの機運に水を差しかねないとの判断により、一昨年秋、ビジネスに特化したJA2018TOKYOが開催されたことは皆様の記憶に新しいところです。幸い、このスペシャルJAも多くの方々のご支持を得、トレード来場者に限ればJA2016に匹敵する規模で開催できました。ここにあらためて出展された皆様にお礼を申し上げたいと思います。

このように航空宇宙産業の発展が大きく期待されている背景には、本産業が知識集約型で産業構造高度化に及ぼす波及効果が大きいことに加え、世界の旅客需要が今後益々増加するという予測のあることが考えられます。さらに、我が国の場合、中小まで含め高い技術力と信頼性及び確実な納期に裏付けられたブランド力とともに、素材や工作機械・工具から、関連サービス並びに修理・整備まで産業が多彩で総合的な広がりを持っており、グ

ローバル化している世界中の航空宇宙産業がパートナーとなり得る日本企業を探しているということもありません。海外企業が日本を見る目を大きく変えたきっかけの一つは、2014年の新しい防衛装備移転三原則策定に見られるような、安全保障に関する政府の舵取り変化があると思います。2016年には初めて防衛省がJAに本格参加され、JAの出展構成に厚みが出ました。次回のJAでも防衛分野の展示・発信に力を入れて参ります。

また、セミナーや講演会についても、基調講演、特別講演に加え、航空、宇宙、防衛、調達等に関するタイムリーで魅力的な内容を企画して参ります。さらに、JA2018TOKYOでは果たせなかったパブリックデー企画もあります。航空宇宙産業が今後共若い人々にとり魅力の大きい分野であり続けるようアピールを提供できればと願っています。

以上のように、JA2021に向け準備を進めてきたところ、本原稿記載時点において、昨今の新型コロナウイルスの世界的感染拡大に起因する東京オリンピック・パラリンピック（東京2020）の1年程度の延期という決定が急転直下報じられることになりました。このため、私どものJA開催日程にも大きな影響のある見込みが生まれました。詳細をご報告できるようになるのには今しばらくの時日を要すると思われませんが、東京2020の新日程検討状況を注視しつつ、共催する東京ビッグサイトとも連携し、皆様に必要な情報をいち早く発信して参ります。ご迷惑をおかけしますが、今しばらく、お見守り下さいますようお願い致します。